

教 育 委 員 会 資 料
令 和 5 年 4 月 日
生 涯 学 習 課

第22回（令和5年度）櫻井徳太郎賞論文・作文募集について

1 趣 旨

民俗学・歴史学・考古学等を通じ、地域を基盤にした学問の発展・発達と、地域を活かす立場から研究を進める人材の育成を図るとともに、次代を担う青少年の地域研究の奨励と、郷土愛を育むことを目的として実施する。

2 論文・作文等の募集

全国より、一般は論文、小・中・高校生は作文等の一般公募を行う。

2-1 【一般の部（大学生、大学院生を含む）】

（1）募集内容

民俗学・歴史学・考古学等の手法により調査・研究をしてまとめた未発表の研究論文。

（2）文字数

20,000字以上、30,000字以内

（3）締め切り

令和5年9月25日（月）消印有効

2-2 【高校生の部】

（1）募集内容

歴史・民俗学的なテーマで、個人で調べたことをまとめた作文・小論文、または共同調査・研究による成果物。

（2）文字数

4,000字以上、16,000字以内。

（3）締め切り

令和5年9月25日（月）消印有効

2-3 【小・中学生の部】

（1）募集内容

身近に存在する古くからあるものや昔の生活について、訪問及び聞き取りを行い、まとめた作文。

（2）文字数

①小学生 800字以上、2,800字以内

②中学生 1,200以上、2,800字以内

（3）締め切り

令和5年9月6日（水）消印有効

3 公募のPR

- (1) 区ホームページ、区教育広報
- (2) 全国の民俗学講座設置大学、及び主要大学への協力依頼、ポスター掲示依頼
- (3) 民俗学・歴史関係学協会等での告知依頼
- (4) 当区文化財係・郷土資料館と交流のある全国の教育委員会及び博物館・資料館などへの協力依頼、ポスター掲示依頼
- (5) 23区内の国公立小・中・高校への協力依頼予定。区立小中学校での周知予定。
- (6) 公募ガイド、その他歴史民俗関係雑誌への掲載予定

4 論文・作文の審査（審査委員は予定）

応募論文については、審査会を設置して大賞等の選定を行う。

審査委員 久保田 昌希（駒澤大学名誉教授、歴史学）
酒井 清治（駒澤大学名誉教授、考古学）
真野 俊和（元筑波大学教授、民俗学）
茂木 栄（國學院大學名誉教授、民俗芸能）

5 入賞作の発表・公開

- (1) 「一般の部」大賞（奨励賞）論文及び「高校生の部」、「小・中学生の部」の入賞作は、受賞論文・作文集に掲載する。
- (2) 板橋区ホームページにおいて、「一般の部」の大賞（奨励賞）論文の概要及び「高校生の部」、「小・中学生の部」の入賞作を公開する。
- (3) 「小・中学生の部」は、最終選考に残った作文題名・氏名・学校名・学年を、受賞論文・作文集に掲載する。

6 表彰と副賞

(1) 一般の部

大賞もしくは奨励賞 1編

※審査結果によっては受賞該当者が存在しない場合もある。

大賞 賞金30万円 ・ 奨励賞 賞金20万円

(2) 高校生の部

最優秀賞 1編 図書カード5万円分

優秀賞 3編 図書カード2万円分

佳作 5編 図書カード5千円分

(3) 小・中学生の部

最優秀賞 1編 図書カード2万円分

優秀賞 3編 図書カード5千円分

佳作 5編 図書カード2千円分

※(2)(3)ともに、審査結果によっては、該当者が存在しない場合や受賞編数が増減する場合もある。

7 いたばしふるさと学習奨励賞

(1) 目的

板橋区の地域や歴史についての学習活動等に顕著な努力がみられた板橋区内の学校（または個人）に対し、今後の郷土学習へのさらなる取り組みや活躍を推進し、これを奨励することを目的とする。

(2) 対象

- ① 個人…板橋区内に在住または在学の小学生、中学生及び高校生
- ② 学校…板橋区内小・中学校、高等学校

(3) 表彰基準

板橋区の地域の歴史や文化、先人の功績などを題材とし、それに対する学習活動または成果発表（櫻井徳太郎賞への作文応募を含む）などにおいて、顕著な努力がみられるもの。

※他のコンクール等の重複受賞は問わない。

(4) 決定方法

生涯学習課にて候補を選定のうえ、板橋区教育委員会及び櫻井徳太郎賞審査委員の協議により決定する。

※応募制はとらない。

(5) 表彰

入賞者には賞状を授与する。

【令和4年度受賞校】

	受 賞 校	応 募 数
1	志村小学校	1 6 8 編
2	板橋第五小学校	1 3 8 編
3	緑小学校	1 0 6 編
4	弥生小学校	5 5 編
5	板橋第二小学校	3 0 編

8 スケジュール（予定）

令和5年5月上旬 募集要項・ポスター発送

9月6日 「小・中学生の部」応募受付 消印有効

9月25日 「高校生の部」「一般の部」応募受付 消印有効

11月上旬 第1回審査会開催

12月上旬 第2回審査会開催・受賞者決定

令和6年3月上旬 授賞式